



かわの忠正ニュース

ただまさ

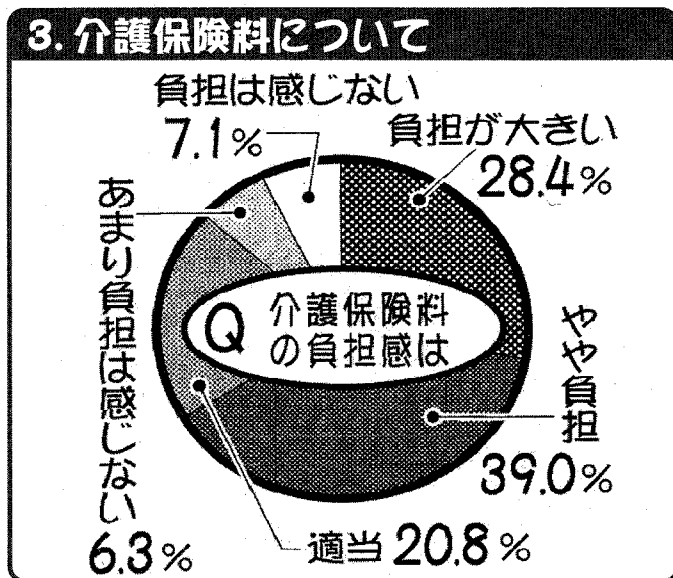
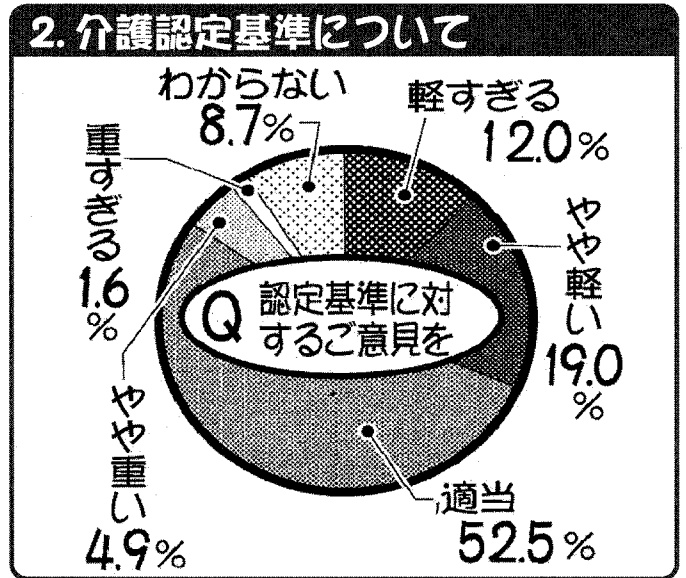
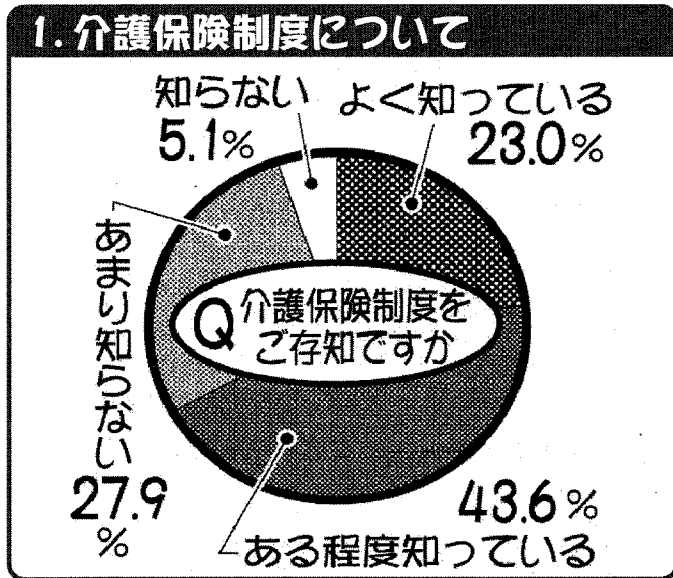
発行所：公明党川崎市議団 発行人：かわの忠正 住所：幸区小向西町3-51 TEL 044-511-0687 FAX 044-556-0176

介護給点検アンケート結果まとまる (速報値)

公明党川崎市議会議員団は、総点検運動推進本部と連携を図り、昨年11月から街頭アンケート、関係者への聞き取り調査などを行い、このたび集計結果(速報値)がまとまりました。今後は施設待機者解消と在宅支援の強化等、制度見直しに取り組みます。



介護給点検は、本格的な高齢化社会の到来に対応した介護の在り方などを見直すために、一般市民・介護家族・介護従事者・介護事業者を対象におこない、新たな介護ビジョンを立案するための基礎となるものです。**かわの忠正議員**は、今後国会議員とも連携を図りながら、施策改善に向けて取り組みます。



他の主な調査結果

- ◎介護を受けたい場所は、施設と在宅介護共に、希望は45%前後でほぼ同数
- ◎自宅で介護を受けている人の内、困っていることは「介護する家族の負担が大きい(精神的、肉体的、経済的)」が最も多い。(35.8%)
- ◎介護従事者からは、働きがいのある仕事が6割、今後も続けたいが7割だが、業務内容に対して低賃金との回答が8割。
- ◎介護事業者からは、介護保険制度の見直しは「事務量の軽減」「要介護認定のあり方」「公費負担の増額」に強い要望
- ◎介護職員処遇改善交付金への事業所対応では、「一時金を支給し様子を見る」が5割を超えた。

H21年 第4回 定例会一般質問

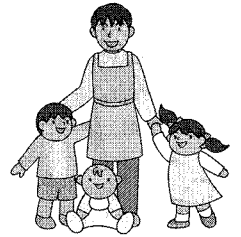
かわの忠正議員は、12月17日、本会議で一般質問に立ち、①市有財産の有効活用（特養ホーム・保育所等の早期整備） ②川崎駅西口周辺の交通安全対策 ③コミュニティサイクルなどについて取り上げました。

● 幸消防署仮庁舎跡地（戸手町）に保育所新設！ H24年4月開所予定

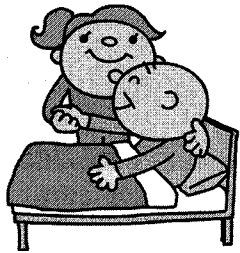
かわの忠正議員は、幸消防署仮庁舎跡地（旧幸保険所）に、介護施設である特別養護老人ホームや待機児童解消のため保育園など社会福祉施設を整備するよう主張しました。総合企画局長は「今年度内に利用目的を定め、H23

年度から有効活用を図る」と答弁しました。

※1月12日に利用目的が決定し、120名定員の保育所が、H23年度整備、H24年4月1日開所予定で設置する事に決定しました。



● 南幸町、小向仲野町に特養ホーム H23年4月開所へ！



かわの忠正議員は、待機者が多い特別養護老人ホームを早期に建設するよう質問し、健康福祉局長は「南幸町（川崎市南部市場の敷地）に120床程度をH23年度着工、開所に向けて計画を進める。小向仲野町地区（国道1号線沿いのブックオフの並び）には29床程度

H22年度着工、H23年度開所する。」と答弁しました。

かわの忠正議員は定員数について、最大限多く受け入れられるよう主張し、健康福祉局長は「入所定員数を多く確保できるよう図る」と答弁しました。

● 川崎駅JRガード下の交通安全対策 検討会議来年度設置へ

かわの忠正議員は、JR川崎駅東西口を結ぶガード下道路の交通安全対策について、「しっかりと検討体制を築くよう」求めました。（右側新聞記事参照）

自転車と歩行者の通行トラブルから昨年11月に傷害致死事件が起きた川崎市のJR川崎駅北側「危険歩道」や、同駅南側県道ガード下（通称「プール道路」）の歩道など、同駅東西方向の自転車通行の安全対策を巡り、同市建設局の斎藤力良局長は17日、担当課長らによる検討会議を来年度、設置することを明らかにした。検討会議メンバーの担当課長は、同局や市民・こども局、川崎区、幸区などから選ばれ、定期的に歩行者と自転車の接触トラブル予防策などを話し合うという。

斎藤局長はこの日の市議会本会議の一般質問で、河野忠正市議（公明）の質問に対する答弁で、「庁内の関係部局で検討の場を設け、歩行者と自転車の安全な通行空間の確保に向けた取り組みを進めたい」との方針を明らかにした。

同市道路計画課によると、検討会議は、建設局や市民・こども局、川崎区、幸区などの担当課長クラス数人が中心で、来年4月にも発足する予定。

同駅の南北にある同駅北側の「危険歩道」と南側の「プール道路」の歩道は幅1・5～4m。両歩道とも自転車と同様の東西を向き、通学客のほか、買い物客の通行が絶えない。ガード下に向かう下り坂があるため、スピードを出した自転車と歩行者が接触する危険性が以前から指摘されていた。

実際、北側の「危険歩道」で昨年11月、歩いて帰宅途中の男に、後ろから来た男性の自転車が接触して口論の末、押し倒され、自転車の男性が後頭部を強打して、死亡する傷害致死事件も発生した。

この事件の後、同市は県警などと連携、南北両方の歩道で、自転車利用者は降りて歩いて歩き、歩行者を優先するよう呼びかける「マナーアップキャンペーン」を実施してきたが、解決には結びついていない。担当課長による検討会議の設置について、同市道路計画課は「新しい解決策を探って行きたい」としている。

自転車通行安全策は 川崎駅東西市が来春検討会議